

巳 蔭子 正六位上源朝臣伊子中將

蔭子 正六位上藤原朝臣達子乎度女乃

亥 蔭子 正六位上藤原朝臣兼子佐々禮石

蔭子 正六位上藤原朝臣知子松加江

〔今昔物語 三十〕會平定文女出家語第二

今昔平ノ定文ト云フ人有ケリ、字ヲ平中ト云ケリ、極タル色好ミニテ、色好ミケル盛ニ、平中□□ニ行ニケリ、中比ハ□□ニ出テノミナム色ハ好ケル、其ノ時ニ后ノ宮ノ女房達、其ノ日□□ニ出タリケルニ、平中此レヲ見テ、色好ミ懸リテ假借シケルニ、返テ後ニ平中消息ヲ遣タリケレバ、女房達車也シ人ハ數有シヲ、誰カ御許ニ有ル消息ニカト云セタリケレバ、平中此ナム書テ遣タリケル、

モ、シキノタモトノカスハミシカドモナカニオモヒ□□□□□□□□

此レハ武藏ノ守ノ□□ト云フ人ノ娘ニテナム有ケル、其ノ人ナム色濃キ練ヲ著タル、其レヲ假借スル也ケリ、然レバ其武藏ナムコノ返事ハシテ云ヒ通シケル、此ノ武藏ハ、形有様微妙キ若人ニテナム有ケル、

〔女院小傳〕宣陽門院、觀子後白川女、母從二位高階榮子、元丹後局、相模守平業房妻也、略下

〔平家物語 六〕小がふの事

主上高は、れんぼの御涙に思召えづませ給ひたるを、申慰め、參らせんとて、中宮總子の御方より、小督と申女房をまゐらせらる、

〔山槐記〕治承四年三月九日辛酉、後聞先有女除日事云々、藏人左衛門權佐光長奉行此事、光長示送

曰上卿藤中納言成範宰相通親仰詞ハ、只藤原輔子、藤原領子、源房子、源頼子、可爲典侍、平衡子、高階秀子、藤

原方子、源職子、可爲掌侍、上仰作了、除位事不仰候、但折紙ニハ注以外記内覽、不奏、清晝直召、外記被